JMFI NEWS
【ジェイエムエフアイ・ニュース】
JAPAN Material Flow Institute
No.22（2017年6月号）
発行●一般社団法人 日本マテリアルフロー研究センター
〒171-0022 東京都豊島区南池袋2-47-6 202
TEL●03-3988-2671 ／ FAX●03-3980-6588
URL●http://www.mf-p.jp

JMFIの活動状況報告

小池 勉◉文
JMFI 専務理事・事務局長

国土交通省から講師を迎えた

国土交通省を招いて勉強会開催

JMFIは，昨年11月18日に設立総会を会員数52社で開催し，本格的に活動を開始しました。会員数は平成29年４月末時点で68社と，16社拡大しました。会員の期待に応えるべく研究会活動も盛んになってまいりました。

今般，４月の理事会開催に合わせ，研究リーダー会のメンバーにもお呼びかけし，国土交通省物流政策課の平嶋課長と鎌田企画室長にお越しいただき，今後の総合物流施策大綱やJMFI事業に関連する国土交通省の平成29年度予算等についてお話を頂きました。以下にその内容の一部をご紹介します。

挨拶する大庭会長

国土交通省の平嶋課長

同 鎌田企画室長

◆総合物流施策大綱

物流は，産業競争力の強化や豊かな国民生活の実現を支える，経済社会にとって不可欠の構成要素である。そこで官民挙げて物流の効率化に取り組むために，政府全体で物流施策の総合的・一体的な推進を図るための新たな中期ビジョンとなる新大綱をまとめるため，平成29年２月より総合物流施策大綱に関する有識者検討会を開催し，平成29年夏頃に新しい総合物流施策大綱の閣議決定を予定している。

その骨子は「強い経済の再生と成長を支える物流システムの構築をめざし，国内外でムリ・ムダ・ムラのない全体最適な物流を実現する」ことにある。

①産業活動と国民生活を支える効率的な物流の実現

- 我が国物流システムのアジア物流圏への展開
  - ➔パレット等の資機材の標準化，北東アジアのコンテナ所在情報の共有
- 関係者の連携による物流効率化等
  - ➔荷主と物流事業者のパートナーシップ強化

- 国民生活の維持・発展を支える
  ➲過疎地物流ネットワークの維持
- 人材確保・育成

②さらなる環境負荷の低減に向けた取組
- 荷主・物流事業者の連携による輸配送共同化の促進

③安全・安心の確保に向けた取組
- 物流における災害対策
  ➲道路，港湾等の地震・津波対策の推進･復旧計画等の事前準備，支援物資オペレーションの連携体制整備等
- 物流を考慮した建築物の設計・運用に向けて，物流を考慮した建築物の設計・運用の手引きを策定

◆国土交通省の平成29年度予算について

物流総合効率化法の一部改正について，以下の説明があった。
- 人口減が見込まれ労働力不足が顕在化しつつある中，我が国産業の持続的成長と豊かな国民生活を支えていくことが，物流に強く求められている
  ➲多様な関係者の連携により物流ネットワーク全体の省力化・効率化をさらに進める枠組みが必要
  ➲支援措置（平成29年度4,000万円）
- 物流分野におけるCO_2削減対策促進事業（平成29年度予算37億円）
- 物流システムは，わが国の経済・社会の維持・発展に不可欠な基盤的システムの一つであるが，安全性や迅速性等，多様な考慮要素が存在
- 新たな温室効果ガス削減目標達成のためにも，物流分野におけるCO_2削減対策は重要な柱の一つ
- これまでは自動車を中心とする陸上輸送が主であったが，人口減少や高齢化等社会状況の変化により，物流システムも転換期を迎えており，このタイミングで低炭素価値を組み込むことが極めて重要
- この状況を捉えて，わが国の最先端技術も活用しつつ，鉄道等へのモーダルシフトをはじめとして，物流システム全体を低炭素型に転換していく。

JMFIの研究活動報告

後半は，現在までのJMFIの研究会活動について，それぞれ固まってきた活動の方向性について紹介します。

①IoTによるリアルタイム見える化シェアリング・ロジスティクス研究会

サプライチェーン・ロジスティクスにおいて輸配送，スペース，作業などのリソースや在庫をIoTやOBD2（On Board Diagnosis 2nd generation）などを活用してリアルタイムに見える化を行い，マッチングやシェアリングを行なう。

②ドライバーの労働環境改善研究会
- 物流現場の全ての行動の可視化を行なう。
- 平成29年度は，日用雑貨品を消費材の業界へ展開する。
- 平成29年度はプロトタイプの成果物で付加価値を生まないドライバーの待機時間の改善を実施する。

③IoTによる物流機材管理研究会
- 単なる物流機材の管理ではなく，搭載物を紐付けしての管理を目指す。
- RTLS（Real Time Location System），LoRaWANの使用の可能性の調査
- マスカスタマイゼーション，サービタイゼーションの実現を目指す

以上を達成するために平成30年1月末までに研究の中間発表を行なう。

④物流省エネ研究会

倉庫，物流業界の省エネ対策とCO_2削減が企業のコスト削減と経営にプラス効果もたらすとともに，地球温暖化防止に貢献する対策研究を実施。
- 物流現場での省エネ状況調査のための課題抽出
- 中小・中堅の物流事業者に対し，省エネ，節電ポテンシャルの診断を実施

⑤災害強靭化研究会

災害が起こった時のラストワンマイルにおける緊急救援物資の配送・管理・仕分け等の混乱を解消を目的とした研究活動を，以下の手順で実施する。

各項目の課題抽出
➲各項目の具体的提言
➲上記をまとめた「緊急支援物資のラストワンマイル」のハンドブック作成
➲ハンドブックを基にした研修会を実施

⑥マテリアルハンドリング研究会

荷役におけるマテハンに対する認識を深めるための事典を作成する。
- イントラロジスティクスで扱うマテハン事典を範囲として出版（JIMHとの共同研究）
- JIMHが，要求仕様を作成し，JMFIは，要求仕様に基づいてシステムの研究を行う

⑦AI／ビッグデータ研究会

「物流業界のAIプロセス」活用の最先端の適用事例を調査･学習して，考えられる経営資源との連携を図るサービスのあり方とその実現アプローチを研究する分科会として運営（AIソリューションを取り巻く技術や適用状況を共有できるようにする）
- 7月よりAIを取り巻く各技術の基本的な理解
  ➲AIソリューションを実現する分析
  ➲シナリオ類型の学習と整理
  ➲自社事業への適用検討

MF